

河川環境の整備・保全に関する政策レビュー委員会

第1回利用部会 議事概要

日 時：平成19年6月18日(月)15:00~18:00

場 所：国土交通省会議室(合同庁舎11階会議室)

1. 資料-2 「河川における環境教育・安全利用の推進」の評価について

(1) 目的およびその根拠について

- ・河川管理者の役割やその理由、また河川管理者が今後も継続して活動していくものと市民等の自立を促すものの見通しや仕分けをする時期ではないか。

(2) 河川における環境教育の表現について

- ・環境の整備と保全の市民理解を得るための教育であり、河川環境に関する多様な教育をすること。河川環境の教育ではないか。

(3) 河川における環境教育によって育成が期待される人間像について

- ・川や流域に愛着を持ち川に何かあったら駆けつけて来るような行動ができる人を育てることではないか。

(4) 河川における環境教育の地域偏在について

- ・子どもの水辺の登録数の偏在については、その理由を検討すべき。
- ・子どもの水辺に関して、水系、流域単位での協議会等を設置することで、地域的な偏在が少なくなるだろう。

(5) 活動拠点について

- ・河川環境教育等の活動が活発になった地域は、活動拠点の存在が大きい。だが、頻繁に活動されている場所に対して、まだ拠点の設置が十分ではない。
- ・拠点での資機材の種類や設置は進んでいるが、貸出ルールやリスク管理ができていないケースも多い。

(6) 指導者について

- ・時間的・資金的な制約が指導者等の不足の一因であり、その対策を議論すべき。
- ・その河川、流域の課題等、多機能的に世話をするNPO法人や市民団体を育て、その中から特別に能力が卓越した人たちが全国を回るというシステムを作るべき。

(7) 情報提供について

- ・小中学校向きの入門的な情報提供は進んでいるが、実際に危険な場所などの情報は意外と提供できていない。また、米国と比較すると少し突っ込んだ本格的な情報は提供できていない。

(8) 関係機関の連携について

- ・横のつながりを確保するための工夫、話し合いの場、ルールが必要ではないか。

2. 資料-3 「市民連携の推進」の評価について

(1) 市民活動の受委託について

- ・専門的知識、ノウハウを活用した活動を依頼する場合には、適切な対価が提供されるべき。
- ・自然環境の維持管理についても事業化するべき。そうすれば市民団体が活動できる。

- ・ NPO や市民団体など経験者の話を聞き、研究すべきである。
- ・ 今の役所・行政側は安い人につき合うというロジックしかない。
- ・ 円滑な受委託関係が課題である。随意契約では、団体が複数ある場合には問題が発生する。また河川管理者が相手を素直に選べないシステムも 1 つの問題になってきている。

(2) 連携上の目的設定とネットワークについて

- ・ 円山川の事例は分析・条件整理が必要。さらに連携を広域に広げるための要件はなにか。いろいろな次元の連携を考えていかなければいけない。
- ・ 市民団体と河川管理者との連携には目的が重要である。特に自然環境の保全管理は、利活用とは異なる目的化が必要である。
- ・ 河川環境の管理は、その地域や自然環境の理解のある市民団体等と連携していく必要がある。
- ・ 身近な自然の維持や学校と活動している小さな団体はたくさんあるが、連携できていない。どうやってネットワークを形成するかが重要である。

(3) 契約行為と品質管理法の関係について

- ・ 草刈りなどの工事費にまで技術力評価を入れたために、地域性の低い業者等が受託し、結果、日常的な点検がおろそかになっている。品確法の適用範囲は検討課題である。

3. 資料- 4 「河川利用・生活環境に配慮した水量・水質の改善」の評価について

(1) 環境用水について

- ・ 清流の再生、環境用水は、河川から動力を使いポンプ等で送水するケースが多い。地球温暖化が問題となっている中で、地球環境問題的な立場から総合的に評価する必要がある。
- ・ 一方で、阿賀川では、ポンプではなく農業用の水路を使っている。うまく考えたケースもある。

(2) 正常流量について

- ・ 大きな川で小さい流量時に精度があるのか疑問である。流量観測の精度を上げるべき。
- ・ 検討項目の中に河川のレクリエーション利用の場としての視点が全く入っていない。

(3) ダムの弾力的運用について

- ・ 治水効果に影響を与えないのなら、最初からダム計画に盛り込むべきである。
- ・ レクリエーション利用という視点で見ると、改善すべきところはまだある。

(4) ダムの湖面利用について

- ・ ダム湖の湖水面利用を禁止しているダムがあるが開放すべき。オリ根湖のように、レイクカヌーを地域と一緒に普及しているいい事例もある。

(5) 流水改善について

- ・ 川は水が流れるという当たり前のことが、この 10 年の間に随分改善されたことは、高く評価している。

(6) 水質の評価について

- ・ 堀川は、DO が高ければアユでも住める水質である。水質指標だけでなく繁殖できるか、できないかが重要。

(7) 川とダムの連携について

- ・ 今後、流域を一本通した管理をやるというのだったら、川とダムをもっと連動させたような議論を常にしておいてもらいたい。研究者も川とダムに分かれてしまっている。

— 了 —